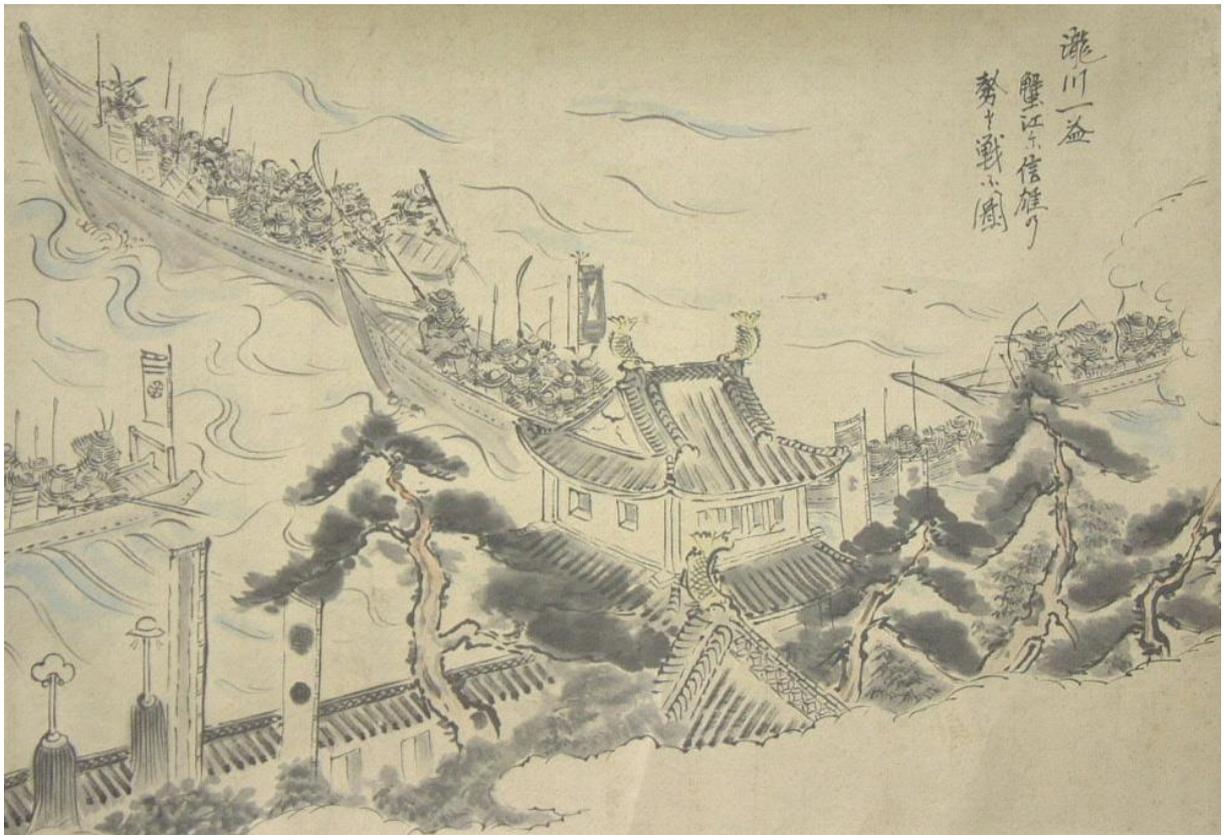


蟹江町歴史民俗資料館 おうちミュージアム

第8回 蟹江合戦とは？



今回のおうちミュージアムでは、蟹江城をめぐって徳川家康とくがわいえやすと羽柴秀吉はしばひでよし（豊臣秀吉とよとみひでよし）が戦った「蟹江合戦」かにえがっせんを紹介します。

① 蟹江合戦とは？

Q1. どういう戦いだったの？

織田信雄・徳川家康軍と羽柴秀吉(豊臣秀吉)軍が戦った「小牧・長久手の戦い」に含まれます。そのなかで、秀吉軍の武将である滝川一益の軍勢と、織田信雄・徳川家康軍との間で行われた蟹江城をめぐる戦いのことです。

Q2. だれが活躍するの？

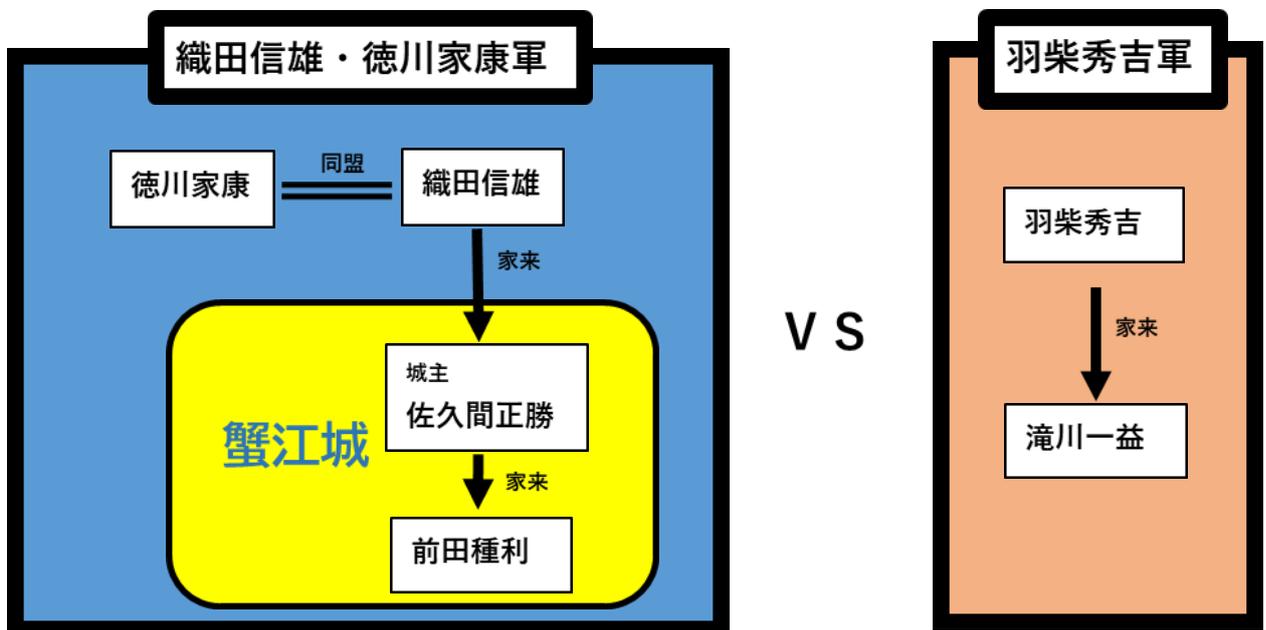
〈織田信雄・徳川家康軍〉

- ・織田信雄 … 「本能寺の変」で明智光秀に討たれた織田信長の息子。信長の亡き後、だんだんと力を強めていく秀吉と対立します。
- ・徳川家康 … 織田信雄と同盟を結び、一緒に秀吉と戦います。
- ・佐久間正勝 … 信雄の家来。蟹江城主として蟹江城を守ります。
- ・前田種利 … 正勝の家来。正勝が留守の間、蟹江城を守るよう命じられますが…。

〈羽柴秀吉軍〉

- ・羽柴秀吉 … 元々は信長の家来。「本能寺の変」の後に明智光秀を討ち、天下を統一しようとします。
- ・滝川一益 … 秀吉の家来。かつて蟹江城主だった経験もあることから、蟹江城攻撃の指揮をとります。

かにえがっせんそうかんず ちよくぜん
蟹江合戦相関図(直前)



Q3. どうして蟹江が舞台になったの？

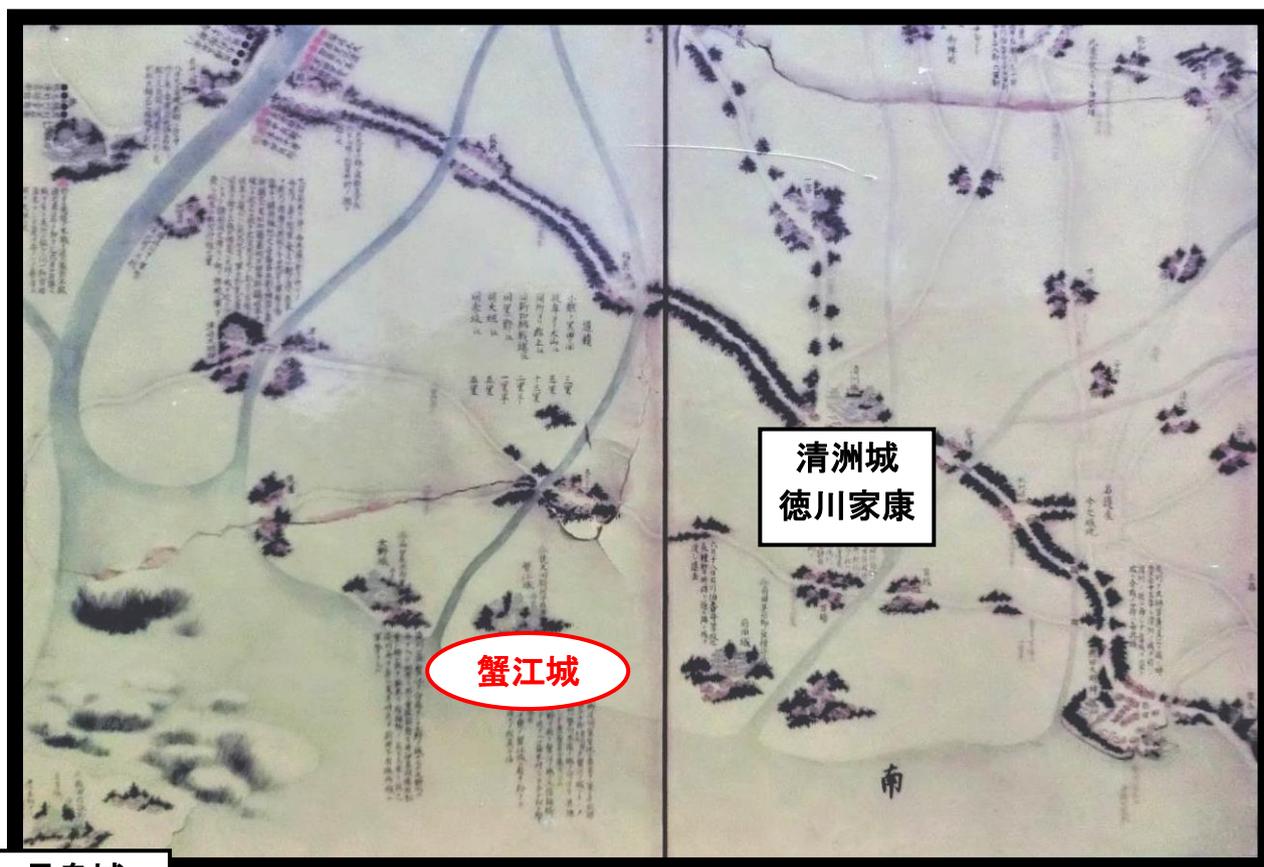
- ① 当時の蟹江は海に面していた。

たくさんの兵やモノを集めて、舟で運ぶことができる、伊勢湾周辺の重要拠点でした。

- ② 信雄と家康の連携を支える場所だった。

信雄は長島城(三重県伊勢市)、家康は清洲城にいました。この中間にある蟹江城は、2人をつなぐ場所でした。

☆ 秀吉は蟹江城を奪うことで、戦いを有利にするための拠点を手に入れながら、信雄と家康のつながりも断とうとしたのです。



長島城
織田信雄

清洲城
徳川家康

蟹江城

蟹江城周辺の立地(『四戦場之凶屏風』(江戸時代後期)より)

※「蟹江城」について詳しく知りたい人は、おうちミュージアム 第7回「蟹江城について」をご覧ください。

②蟹江合戦のあらまし

○小牧・長久手の戦いに至るまで

・本能寺の変(天正10年(1582))

京都の本能寺で織田信長と長男・信忠の父子が明智光秀に討たれます。

・清洲会議(天正10年(1582))と賤ヶ岳の戦い(天正11年(1583))

「本能寺の変」の後、織田家では誰が信長の後を継ぐかで争いが起きます。

信長の次男・織田信雄 + 羽柴秀吉 VS 信長の三男・織田信孝 + 柴田勝家

⇒ 信雄・秀吉軍が勝ちますが、今度は信雄と秀吉が対立します。

・小牧・長久手の戦い(天正12年(1584))

信雄は父・信長の同盟者であった家康の助けを受けて、秀吉と戦います。

織田信雄 + 徳川家康 VS 羽柴秀吉

○蟹江合戦の流れ

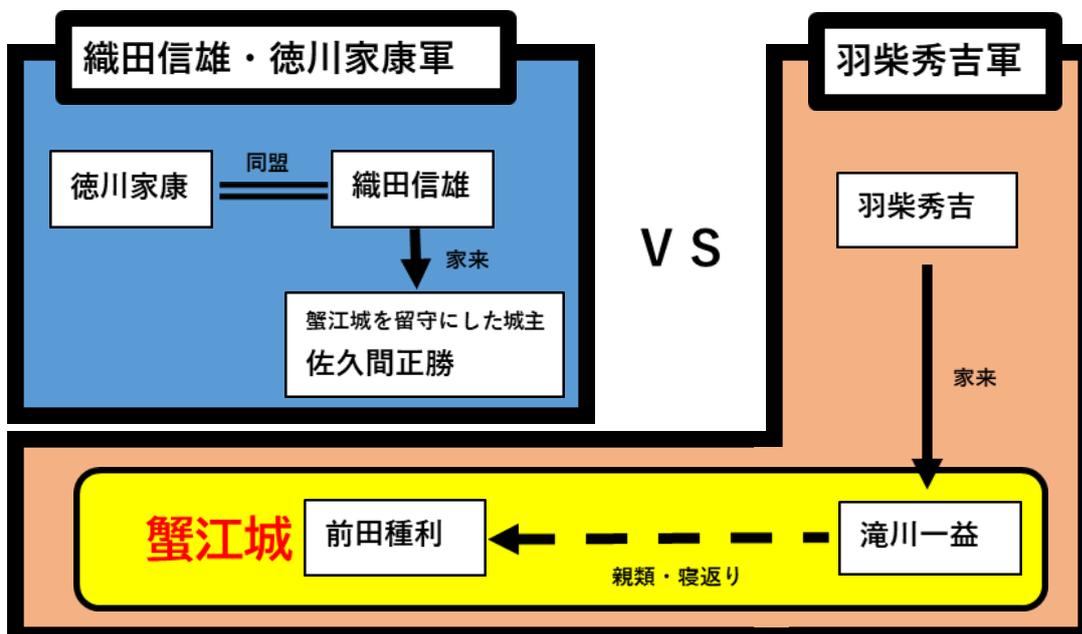
① 蟹江合戦の開始当初(蟹江城の所属:織田信雄・徳川家康軍)

織田信雄の家来・佐久間正勝が蟹江城を守ります。

② 滝川一益による蟹江城攻撃(蟹江城の所属:羽柴秀吉軍)

正勝が蟹江城を留守にしていた時、秀吉の家来である滝川一益が蟹江城を攻撃します。このとき、正勝から留守を任されていた前田種利ですが、一益と親類関係だったため秀吉方へと寝返り、蟹江城へ招き入れます。

蟹江合戦相関図(蟹江合戦時)



③ 信雄・家康軍による反撃(蟹江城の所属:羽柴秀吉軍)

信雄は長島城、家康は清洲城から蟹江に集まり、蟹江城を取り返そうとします。

④ 信雄・家康軍が取り返す。(蟹江城の所属:織田信雄・徳川家康軍)

約1週間とも2週間ともいわれる戦いの結果、信雄・家康は勝利し、蟹江城を取り返すことに成功しました。

○勝敗の分かれ目

① 蟹江城の内外で秀吉方へ寝返ることを拒み、抵抗した人たちがいました。

このため、一益は蟹江城の全てを手に入れることはできませんでした。

② 蟹江城に面する海の潮の満ち引きに阻まれるなどして、一益は戦うために

必要な武器や食べ物を十分に運び入れることができませんでした。

☆ 江戸時代の本には、「家康にとっては、蟹江での勝利がその生涯を左右するものであった・・・」と書いたものがあるほどです。また、家康が勝利した影には、蟹江の鈴木兄弟の活躍がありました。

○鈴木兄弟の活躍

・鈴木重安(兄)…滝川一益軍の攻撃や前田種利の寝返りに抵抗して蟹江城を守ります。しかし、戦死してしまいました。

・鈴木重治(弟)…蟹江城が攻撃されたことを家康に知らせます。その功績から、槍を与えられました。



家康から槍を与えられる鈴木重治
(『海東郡史談』(明治時代)より)

○その後の蟹江城

蟹江合戦の後、蟹江城は修理されず、翌年の地震により無くなったとも、家康によって壊されたとも伝わりますが、はっきりしたことは分かっていません。

また鈴木兄弟の活躍を称えた家康は、生き残った重治に褒美を与えます。重治はその褒美を元に鈴木家を再興しました。こうして鈴木家は蟹江に住み続け、海部地域の名家として尊敬されることになりました。